

次期会長立候補者

みずの あきひさ
水野 明久 氏

1953年6月13日生まれ（64歳）
※年齢は2017年9月23日時点
中部電力株式会社 代表取締役会長



推薦者

田中 政雄氏	愛知県アイスホッケー連盟会長
岩田 憲恭氏	日本アイスホッケー連盟評議員（富山県選出）
堀口卓司郎氏	茨城県アイスホッケー連盟会長
	日本アイスホッケー連盟元会長
富田 正一氏	日本アイスホッケー連盟元会長
遅塚 研一氏	日本アイスホッケー連盟会長

次期会長立候補者

ほんだ みきお
本多 三紀夫 氏

1954年8月31日生まれ (63歳)

※年齢は2017年9月23日時点

有限会社YUITEC 代表取締役



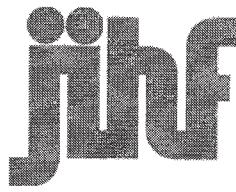
推薦者

宮本	欣貞氏	香川県アイスホッケー連盟会長
乗松	英樹氏	日本アイスホッケー連盟評議員 (愛媛県選出)
伊勢	明弘氏	日本アイスホッケー連盟評議員 (徳島県選出)
本多	保紀氏	日本アイスホッケー連盟評議員 (岡山県選出)
津城	三郎氏	日本アイスホッケー連盟評議員 (山口県選出)



次期会長立候補者 経 歴 書

ふりがな	みずの あきひさ	生年月日	平成 29 年 9 月 23 日現在	
氏 名	水野 明久	(満年齢)	昭和 28 年 6 月 13 日生	(満 64 歳)
現住所	〒 [] 名古屋市 []	電 話	[]	
所属 スポーツ団体	団体名	愛知県アイスホッケー連盟		
	役職名	-		
連絡先	パソコンメール	[]		
	携帯電話	[]		
職業 <input checked="" type="checkbox"/> 現職 <input type="checkbox"/> 前職	勤務先	中部電力株式会社		
	役職	代表取締役会長		
	〒461-8680	電 話	052-951-6200	[]
	名古屋市東区東新町 1 番地			
最終学歴	昭和 53 年 3 月 東京大学大学院 工学系研究科 土木工学専門課程 修士課程 修了			
スポーツ団体 役員等歴	在任期間	団体名 (役職名)		
	自 平成 22 年 7 月 至 現在	愛知県経営者協会 (副会長)		
	自 平成 24 年 4 月 至 現在	一般社団法人中部経済連合会 (副会長)		
	自 平成 25 年 5 月 至 現在	赤門スケートクラブ (会長)		
	自 平成 27 年 5 月 至 現在	公益財団法人愛知県体育協会 (副会長)		
職歴	在任期間	団体名 (役職名)		
	昭和 53 年 4 月	中部電力株式会社 入社		
	自 平成 20 年 6 月 至 平成 21 年 6 月	同社 (取締役専務執行役員 経営戦略本部長)		
	自 平成 21 年 6 月 至 平成 22 年 6 月	同社 (代表取締役 副社長執行役員)		
	自 平成 22 年 6 月 至 平成 27 年 6 月	同社 (代表取締役社長 社長執行役員)		
	自 平成 27 年 6 月 至 現在	同社 (代表取締役会長)		



次期会長立候補者 経 歴 書

ふりがな	ほんだ みきお	生年月日	平成 29 年 7 月 7 日現在	
氏 名	本多 三紀夫	(満年齢)	昭和 29 年 8 月 31 日生	(満 62 歳)
現住所	〒 神奈川県茅ヶ崎市	電 話		
所属 スポーツ団体	団体名	香川県アイスホッケー連盟		
	役職名	理事		
連絡先	パソコンメール			
	携帯電話			
職業 <input checked="" type="checkbox"/> 現職 <input type="checkbox"/> 前職	勤務先	有限会社 YUITEC (URL : http://www.yuitec.com/)		
	役職	代表取締役		
	〒253-0054	電話	080-9440-5641	
最終学歴	神奈川県茅ヶ崎市東海岸南 3-8-31-801			
スポーツ団体 役員等歴	在任期間	団体名 (役職名)		
	自 平成 27 年 6 月 至 現在	香川アイスフェローズ シニアディレクター		
	自 平成 28 年 2 月 至 現在	日本アイスホッケー連盟 総務委員		
	自 平成 28 年 7 月 至 現在	香川県アイスホッケー連盟 理事		
	自 平成 28 年 7 月 至 現在	高松市アイスホッケー協会 理事		
職歴	在任期間	団体名 (役職名)		
	自 平成 26 年 12 月 至 現在	有限会社 YUITEC 代表取締役		



会長立候補 趣意書

氏 名 水野 明久



札幌オリンピックや世界選手権で注目を集めたアイスホッケーは、一時期冬の人気スポーツでありましたが、長野オリンピック以降、有力企業の企業スポーツからの撤退、日本リーグからアジアリーグへの変更など様々な要因が重なり、精彩を欠いた時代が続きました。しかし、昨今女子の成長は著しく、ソチオリンピック出場、今年の世界選手権でのトップリーグ復帰、来年の平昌オリンピックでの活躍への期待が高まっています。男子も有望な若い選手が、欧米のチームにチャレンジし、世界で羽ばたこうとする新しい動きが出てきており、アイスホッケー界に輝きが戻ろうとしています。

そんななか、アイスホッケー界では全く無名である私に対して、日本のアイスホッケーの復活、そして将来の成長、発展のための基盤作りを手伝ってほしいとの話をいただきました。私自身、アイスホッケーとの関わりは、大学の4年間をアイスホッケーに打ち込んだこと、子供が所属した名古屋のジュニアチームでクラブ運営を担ったこと、そして現在大学のクラブ OB 会長を務めるくらいで誇れるものは何もありません。しかし、多くの連盟の関係者から、日本のアイスホッケーへの熱い思いと、アイスホッケー界の抱える様々な課題をお聞きし、熟慮の末、私の経済人としての経験が、連盟の改革、ひいては日本のアイスホッケー発展のために役立つかもしれないと考え、会長立候補を決意いたしました。

課題が山積していることは、十分認識しています。例えば、次世代の選手を目指す若い人が夢を描き挑戦できる環境作り、リンク事情などアイスホッケー環境の整備、地方組織との連携強化によるアイスホッケーの全国スポーツ化、各種競技会の充実などです。いずれも短期に解決できるほど容易なものではなく、関係する皆さんが知恵を出し合い、一つ一つ改善する努力が必要であると考えています。

育成、強化の現場に対しては、その道のプロに任せ、私自身が細かく口を出すつもりはありません。私の役目は、皆で目標を共有した上で、その実現への道筋を大いに議論して具体化すること、そして皆の熱い思いを一つにして、より大きなエネルギーとしていくことかと思っています。アイスホッケー経験者で社会の様々な分野で活躍している人も多くいます。そうした人達にも、一翼を担ってもらえるよう積極的に働きかけを行い、所属チーム、出身地などの区別なく、日本のアイスホッケーのために何をしなければならぬか、皆で考え、行動を起こしていく“うねり”を作り出していきたいと考えています。

最後に、アイスホッケー連盟のここ数年の混乱に対して、収束に向け奮闘努力された遅塚会長をはじめ連盟スタッフ・関係者に心より敬意を表します。

以上



〔様式4〕

公益財団法人日本アイスホッケー連盟

会長立候補 趣意書

氏名

本多三紀夫



現在のアイスホッケーの置かれている状態を鑑み改善に向け、取り組むべき施策の方向性を示させていただきます。

1. 都道府県アイスホッケー連盟への登録人数がここ数年、全体で見れば減少傾向にある。
この事は、アイスホッケーという競技が、子供から大人まで楽しめる地域スポーツ・生涯スポーツであるという観点が欠如してきた結果だと考えられる。
今後、所謂、マーケティング理論を導入して都道府県連盟と一体となってアイスホッケー普及活動を新たにスタートさせる。
2. 現在、中央組織である日本アイスホッケー連盟と地方組織である都道府県連盟間の情報共有が出来ているとは言い難い状況を打破する必要があると考える。
その為に
①日本アイスホッケー連盟から都道府県連盟へ積極的な情報伝達活動を行う。
②都道府県連盟の置かれている現状と今後の課題を理解するため都道府県連盟からの情報収集活動を改めておこなう。
以上の2項目を実行する為、日本アイスホッケー連盟の組織改革と意識改革を都道府県連盟と一体となって取り組む。
3. 公益財団法人である日本アイスホッケー連盟の民主的かつ開放的な組織運営とは、どのようにあるべきかを、改めて組織内で検討し確立する。

短い期間内に多くを望んでも掛け声倒れに終わる可能性が高いと考えられますので当面の課題としては、以上、3項目をまず確実に実行し成果が確認された後、新たな課題に取り組んで参ります。

以上